

未来はAIが進み、人間の職が奪われるのではないかというニュースを聞き、僕は未来について考えた。僕の祖父は、農業産もAIになつてしまふかもしれない。ロボットに野菜や肉の世話を任せて、安心できるだろうか。ロボットが誤作動したり、自然環境の変化を感じきれずに上手く育たなかつたりするかもしれない。もしかしたら、大量の野菜や動物の命が犠牲になることもあるかもしない。野菜や肉は、人の手や真心があるからこそ、安心できるのだと思う。僕の未来は、たとえAIが進んだとしても、人間だからこそできることを大切にする社会であつてほしいと願う。

朝日 小山口 陽波

ぼくは将来、たくさんの人の病気を治す医者になりたいと思います。小さい頃、夜中に息が苦くなるクループという病気になつて、とても苦しくて不安でした。その時ぼくを助けてくれたお医者さんがかつこいいと思つて憧れたからです。テキパキと治りようをしてくれました。

今は、病気で苦しんでいる人の病気を治すだけではなく、ぼくにも優しい声をかけて安心できるようにしてください。

これからも信頼される医者になるために、勉強を頑張りたいです。そして、一人一人と向きあい、友達を大切にして信頼される人になるよう努力していきました。

私は、読書が好きです。様々な本を読む中で「国境なき医師団」という存在を知りました。彼らは、戦災や天災の際に救助を必要とする人がいれば、人種や政治・宗教に拘わらず救援に赴きます。カッコよくてすごいと感じました。私もそんな活動をやつてみたいと思いました。

国際的な活動をするには、基本的な知識・技術は勿論のこと自ら気持ちを伝えようとすることが必要不可欠だと思います。その力を手に入れるため、もっと沢山のこと挑戦して、視野を広げていきたいです。そして、世界で困っている人を助ける人になるように頑張ります。

有田 中森 穂乃佳



今、私の自由帳は家の絵や設計図でいっぱいです。どんな人が住むか想像して、部屋の間取りを考えたりすることが楽しくあります。私は将来の夢である建築家を目指して毎日をがんばっています。

私の祖父は大工の棟りようでたくさんの家を建てていて、そんな祖父を見るうちに、いつしか私も建築家になつて設計をしたいと思いました。祖父が建てた家に住む人達はみんな笑顔だったので、私もたくさんの人が笑顔で安心して暮らせる家を設計したいです。

私は未来に向かつて一つ一つのことをあきらめず努力して、世界で有名な建築家になりたいです。

桜岡 小岩本 悠花

ぼくの夢は、本に関する仕事につくことです。本に関係する仕事と一言で言つてもたくさんあると思います。例えば、作家や本屋、出版社、図書館で働く事など様々な本に関係する仕事があります。

そもそも、ぼくがなぜ本に関係する仕事につきたいと思ったかといふと元々マンガが大好きで、小学校の三年生くらいになると本も読み始め、こんなにおもしろい本に関係する仕事に将来けたらいいなと思つたのがきっかけです。

でも、まだつきたい職業については決めていないので、調べたり、様々な経験を通して時間をかけて決めていきたいと思っています。

それでも、まだつきたい職業については決めていないので、調べたり、様々な経験を通して時間をかけて決めていきたいと思います。

大川内 小市川 浩大

家庭学習の習慣化4つのススメ

- オススメ① 生活のリズムを整えましょう!**

例えば
・早寝、早起き、朝ごはん!
・次の日の準備は寝る前に!
起きる時間、寝る時間を決めて!
- オススメ② 学ぶ雰囲気をつくりましょう!**

例えば
・身のまわりの整理・整頓!
・テレビを消すなど学習に集中できる環境を!
・学習と休けいのメリハリを!
- オススメ③ 小さな「がんばり」を見つけ、ほめてあげましょう!**

例えば
・結果はもちろん、がんばった過程も大切に!
・失敗は成功のもと、いいところを見つける!
・子どもの「よさ」を具体的にほめる!
- オススメ④ 家族の対話を大切にしましょう!**

例えば
・家族の中でのあいさつを大切に!
・学校からの便りや連絡帳に目を通す!
・自分の体験談を話す!
・新聞記事やニュースなども話題に!
・寄り添い、応援するスタイルで!
・家族の一員としてお手伝いを!

*「家庭学習の手引き～保護者用リーフレット～」(平成31年4月)より抜粋

「学ぶ力」とは、勉強や受験などに必要な学力という狭い意味にとどまらず、これからを生きる子どもたちが、予測不能な社会の変化に積極的に向き合い、未知なる課題を他者と協働して解決していくために必要な力です。

そこで、保護者の有効な働きかけがどのようなものかについて、「家庭学習の手引き～保護者用リーフレット～」に「家庭学習の習慣化4つのススメ」としてまとめています。(左図参照)

この4つのススメは、子どもの意欲や興味・関心、挑戦する気持ち、粘り強く取り組む力などを強く支えるものであり、その働きかけの例を紹介していますので、各ご家庭に当てはめ考えてみてください。



『家庭学習の手引き～保護者用リーフレット～』(平成31年4月以降、各家庭に配布)

第65回日本PTA九州ブロック研究大会 くまもと大会

開催日 平成31年10月10日(日)
会場 佐賀市内7会場

開催日 平成31年10月11日(日)
会場 グランメッセ福岡

主催：九州ブロックPTA協議会
主審：熊本県PTA連合会・鹿児島PTA協議会
第65回日本PTA九州ブロック研究大会くまもと大会実行委員会

「咲かせよう 子どもたちの輝く未来を」

「しきやせの家庭教育を、全ての子供たちのために」



佐賀清和学園(佐賀清和中学校・高等学校)

一人一人に向き合って 109年
<中高一貫教育><男女共学><創立109年>
・最高の学習環境・生徒と先生でつくりあげた「信頼」

建学の精神は『人間性の涵養』

富吉賢太郎理事長

くわしくはHPをご覧ください。

佐賀清和中学校・高等学校
〒849-0919 佐賀市兵庫北二丁目14番1号
TEL 0952-37-5400(代表)
E-mail:info@sagaseiwa.com



教職員の働き方改革

九州各県より、八二〇〇人が参加し新しい時代を見据え、家庭・学校・地域が強く連携し、様々な活動を通じて「親力」を高められるPTAを考える研究主題で「子どもを中心に様々な活動を行いたい」と願いを込めて福岡県大会が開催されました。

一日目は、八分科会・特別分科会に分かれ提言校の発表や研究討議が活発に行われ、佐賀県を代表して多久市立東原庠舎西渓校が発表されました。九州ブロックPTA協議会表彰式も行われ、佐賀県からは、団体表彰六団体・個人表彰八名が表彰されました。

記念公演は、国立青少年教育振興機構が一年で偏差値を四十上げて慶應大学に現役合格した話の主人公小林さやか氏が講演されました。

V E 新羅慎二（若旦那）氏の音楽で盛り上がりました。

来年度は、「くまもと大会」十月十日・十一日に開催されます。

会長に聞く

さまざまな業務の増加により、教職員の過重な労働が顕在化する中、学校現場の働き方改革がいよいよ始まる。この改革においてPTAとして何ができるのか、江田明弘会長に聞いた。

（聞き手）瀬戸健太郎・佐賀県PTA新聞編集委員長

先生、学校の支援者に

一 学校や教職員の現状をどうとらえているか。

江田 私は中小企業の人間。だけど、人手不足は深刻だ。学校現場も我々と同じように過重な労働をしていることは否定できないと思う。いい人

だろう。

一 四月からの改革スタートと一緒に、保護者の負担が増えることも。

江田 まずは、学校が何のために存在しているのか考えてしまい。保護者は要望を訴えるだけではだめだ。PTAの中でも横のつながりを構築し、その中でなんとかしな

ければならない。保護者同士が助け合う互助の精神が必要。そういうことを保護者に呼び掛けていきたい。ますますPTAの存在意義が大きくなると感じている。

一 教職員にゆとりができることで、子どもにいい影響が与えられる。

江田 先生本来の仕事を戻

材を集めるために、改革を取り組んでいかなければならぬ。

一 教職員の過重な労働が子どもたちにどんな影響を与えるか。

江田 心のゆとりがないといいものは生まれないと思う。人を育てるという面では特に顕著で、ゆとりがないと良い

一 改革を進めていくためには何が必要か。

江田 現状では親が家庭でしつかりしつけをすることが第一だと思つ。価値観が多様化している時代で、何がしつけかを定義することは非常に

一 改革を進めていくためには何が必要か。

江田 現場が変わる中で、保護者と

してどうすればいいのかを考えるいい機会ではないか。PTAの存在意義は何か、何のためにPTAに所属しているのか、

A活動の意義だろう。

今回の働き方改革は、学校

あらためて考え方直すチャンス

現場が変わることで、保護者と

同じような心配をしていて

のがついこの前のような気が

して、月日の経つのは早い

なあと思いました。

幸いにも当初の心配は杞憂

に終わり、娘達との会話の中

でも沢山の友達の名前が出て

きます。また今年の運動会で

は、自分の出る競技を頑張る

だけでなく、応援リーダーや

用具係など与えられた役割を

しつかりとこなし、上級生らしい姿も見せてくれて、成長

を感じさせてくれました。

子どもたちが成長したこと

と言つて心配事が尽きたから

はないと思いますが、いつの間にか大きくなつた後ろ姿を

見ながら、日々の成長に感謝

するとともに、これからも更なる成長を期待し見守りながら、親としても一緒に成長していなければと思います。

鹿島小島 洋平

第64回日本PTA九州ブロック研究大会 福岡県大会 新しい時代を共に歩むPTA

～家庭・学校・地域がつながり、高めよう「親力」～

おやぢから

九州各県より、八二〇〇人が参加し新しい時代を見据え、家庭・学校・地域が強く連携し、様々な活動を通じて「親力」を高められるPTAを考える研究主題で「子どもを中心に様々な活動を行いたい」と願いを込めて福岡県大会が開催されました。

た。

がら保護者が共に成長しましよう」との願いを込めて福岡県大会が開催されました。

た。

一日目は、八分科会・特別分科会に分かれ提言校の発表や研究討議が活発に行われ、佐賀県を代表して多久市立東原

庠舎西渓校が発表されました。

二日目は、マリンメッセ福岡においてネットモラル（情報モラル）やメディアリテラシー（情報活用能力）に関する内容の教育が行われました。新聞やテレビの報道ではネットモラルについて語られてきました。新聞やテレビの事件や問題点がよく語られており、本校でもLINEでのトラブルやゲーム依存による生活が講演されました。

理事鈴木みゆき氏と「学年ビリのギャルが最後に、エンディングスペシャルLIVE新羅慎二（若旦那）氏の音楽で盛り上がりました。

記念公演は、国立青少年教育振興機構が一年で偏差値を四十上げて慶應大学に現役合格した話の主人公小林さやか氏が講演されました。

十一日に開催されます。

スマホは必要なの？～ネットモラル・メディア・リテラシー～

多久市立東原庠舎 西渓校育友会 前会長 隊内 敬

た。

そこで育友会を中心となつて五年生から九年生の児童生徒とその保護者にアンケートを行った。それを分析し現状を把握すことから始めました。アンケートを集計したところ、いくつ

かの気になる点が浮かび上がつてきました。本校のスマホ等の所持率については児童生徒は七

十%が持つて

た。

